

生月まち協 だより

第57号

令和4年1月15日発行



生月地区まちづくり
運営協議会

TEL/FAX 0950-29-9080



明けましておめでとうございます

絶景カレンダー販売

今年度事業『あなたの生月絶景ポイントを教えてください!!』で応募いただいた128点のすばらしい写真をそのままにしておくのはもったいない!とカレンダーを作成し、地区住民の方へお礼の気持ちを込めてお配りしました。すると「他県にいる子供に送りたい」「購入したい!!」など数々のお問い合わせをいただきました。そこでカレンダーを増刷し、1部500円(税込)で販売しています。数量限定となっておりますので御入用の方はお早めにお問い合わせいたします。



【購入場所】生月まち協事務所「海風」
【販売時間】月～木 午前9時～午後4時まで
金 午前9時～午後3時まで
※土日祝は休み
【お問合せ】0950-29-9080

SNSを開設しています

生月まち協では各種SNSを開設しています。フォロー・お友達追加をお願いします!!

【ホームページ】



【Facebook】



【Instagram】



【LINE】



しめめ かり 注連垂れて 和布刈の手桶 岩にあり



この句は、門司の和布刈神社で毎年旧暦の元旦に行われる和布刈神事に題を取っています。急流激しい関門海峡の海岸で行われるもので、神職が松明の明かりを頼りに海の中に入り和布刈(＝ワカメ)を刈り取り奉納するというものです。その道の人には有名な祭りで昔から多くの人たちが全国から押し寄せていたそうです。しかし、とりわけこの祭りを一般の人まで知らしめたのは、ほかでもない北九州出身の松本清張さんでしょう。清張さんと言えば社会派推理小説の大家で、数多くのベストセラーを世に出しています。「点と線」や「黒革の手帳」などは何度も映画化やテレビドラマ化されていますのでよく知られています。和布刈神事が出てくるのは「時間の習俗」という本で、神事の光景が撮られた写真がアリバイの証明となって犯人逮捕が難航するというストーリーで展開していきます。

ネタバレになってはいけないのでここまでにしますが、神事の様子も細かに描かれていて、謎解きの楽しさ以上にわくわくしたことを覚えています。

数年前小生は、和布刈神社を訪ねたことがあります。寒がりな上に怖がりなので神事の時間にお邪魔することはできませんので暖かい日に行って来ました。神事が行われると思しき場所の近くに行きましたが、眼下をゴウゴウと唸り上げて潮が流れその勢いの凄まじさに足がすくみました。生月大橋の下もすぐ潮が行きますがその比ではありませんでした。こんな所で神事を行うなんて人間業ではないなと感じました。清張さんの本が好きで和布刈神社だけでなく本に登場する場所を数多く訪問しています。聖地巡礼が話題となっていますが、小生もその範疇に入る聖地巡礼二ストなのでしょうね。

(学)

